

# ふ・た・り や・ら・り

## 『項羽と劉邦』改版

司馬遼太郎 新潮社 2005.6

不世出の武勇と賢人をも惹きつける人柄、対照的な二人を中心に、汎中国的なものへの出発点となった楚漢の抗争を描く長編群像劇。

## 『ビブリア古書堂の事件手帖』

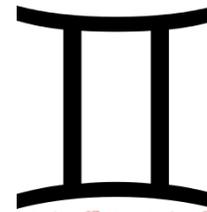
三上延 メディアワークス 2011-17

活字恐怖症のアルバイトと超内気な本の虫の女店主。不器用な二人を中心に織りなす日常系ビブリオミステリ。作中に登場する絶版本が複製されるなどした。

## 『カストロとゲバラ』

(広瀬隆 集英社 20182)

一弁護士と医師だった二人が、いかに革命をなしとげ米ソと対峙したか—たった十六人の同志から始まったキューバの歴史を熱く綴る。

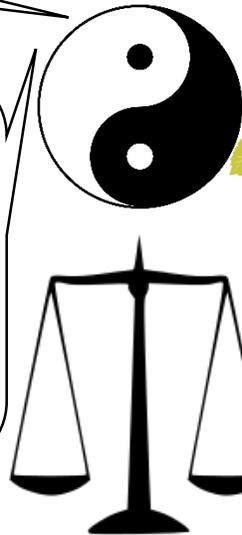


第12回

## 眠れる森の美本

『読書こぼればなし—一月一話—』  
淮陰生／著 (岩波書店 1980)

1970年1月から雑誌『図書』で連載されたものを再編集した本書。著者いわく、「毒にも薬にもならぬ話ばかりを紹介」したエッセイ集。ストウ婦人『アンクル・トムズ・ケビン』、有吉佐和子の『恍惚の人』など、著者独特の視点で語っています。くすっと笑える雑学から、勉強になる挿話まで、読みやすい文でまっています。



## 『現代語抄訳で楽しむ東海道中膝栗毛と続膝栗毛』

(大石学監修 KADOKAWA 2016.9)

おなじみ弥次喜多珍道中、でも京都の先はご存知？ 歴史学者の視点から抄訳、善光寺までの続編も収める、他では中々読めない物語。



# ちらっと

Chiratto  
Vol.12



2018年6月-2018年7月号

特集1

全館統一展示・宇宙

特集2

ふたり

連載

眠れる森の美本

お知らせ

西東京市図書館からのお知らせ  
FM西東京で紹介した本



# 全館統一展示

今夏のテーマは「宇宙」。

今年3月に亡くなったホーキング博士の著作はもちろん、眺めているだけで楽しい天体の写真集まで。全館多数の本を取り揃えて展示いたします。

# 宇宙

## 『ホーキング、ブラックホールを語る —BBCリース講義—』 (スティーヴン・W.ホーキング／著 2017.6)

ホーキング博士が、宇宙で最も不思議な天体、ブラックホールとは何かを一般向けに分かりやすく語った講義録。2016年に放送された英国BBCラジオ「リース講義」での講演を書籍化。

## 『ハッブル宇宙望遠鏡がとらえた宇宙の絶景』 (縣秀彦／監修 2015.1)

それは、宇宙と人類の始まりを探る旅。打ち上げから25年、ハッブルが見つめた宇宙の真実とは？ 宇宙138億年の謎を解き続ける宇宙の眼、ハッブル宇宙望遠鏡のベストフォトセレクション。

## 『宇宙のことがだいたいわかる 通読できる宇宙用語集』 (郷田直輝／著 2014.1)

北斗七星、年周視差、ダークマター…。身近な天体から始めて、宇宙の果てや“見えないうもの”に至るまで、人々の関心が高そうな宇宙に関することばを選び、簡潔に解説。そこからさらに発展した話題にも触れる。

## 『重力波は歌う —アインシュタイン最後の宿題に挑んだ科学者たち—』 (ジャンナ・レヴィン／著 2016.6)

重力波の直接観測に初めて成功するという偉業の陰には、天才の試行錯誤があり、人と人の確執があり、ビッグサイエンスならではの政治的駆け引きがあった。重力波を追い求めた人々が織りなす人間ドラマの全貌を明かす。

## 『宇宙食 —人間は宇宙で何を食べてきたのか—』 (田島眞／著 2015.11)

宇宙日本食の開発から10年。その開発の歴史は、日本ならではの特徴がある。宇宙食の歴史から、NASAアポロ計画で導入された食品加工技術、現在の宇宙食、未来の宇宙食まで、専門知識がなくともわかるように解説する。

全館統一展示『宇宙-我等の知る全て-』は、西東京市図書館全館にて、6/16(土)～8/15(水)まで開催しています。

## 図書館からのお知らせ

### 健康・医療情報コーナー テーマ展示実施中

7月からテーマ展示が『睡眠』に入れ替わりました。9月末まで中央図書館健康・医療情報コーナーにて展示しております。ぜひご利用ください。

## F M西東京で紹介した本

### 『行ってみたい 世界の灯台』

陸と海を繋ぐ「海の見張り番」ともいえる灯台。昔から航海者にとって安全な航海の道しるべとなる、なくてはならない重要な存在ながら、その存在をあまり知られることなく淡々と海を照らし続ける灯台の多いこと。現役で稼働しているアメリカ最古の灯台、ブラジルの要塞の上に建つ灯台…。世界中の灯台の中から旅心をくすぐる65基を厳選し、美しい写真とともにその灯台についての情報や歴史を紹介する1冊です。

### 『行商人に憧れて、ロバとモロッコを1000km歩いた男の冒険—リアルRPG譚—』

8年前、突然消息不明となった親友を探しにフィリピンに行ったことをきっかけに、その冒険は始まった。エジプトの砂漠を渡るべく、ラクダ飼いの見習いになったら死にかけたり、モロッコを横断するため、変態ロバや鳥たちと行商したり…。「冒険家」を名乗る著者のリアルRPG譚は、これからも続きます。

発行：西東京市図書館

<http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>